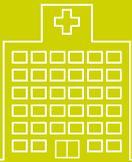


八鹿病院 ニュース



2012年

7月号



地域に暮らす人々と共に
心あたたかな医療をすすめたい



● yoka hospital 「医療」

地域へ巡る超音波検診

- 患者会・教室の輪っか「元気会」
- 看護部だより「褥瘡チーム」
- 看護の意識を高めよう「看護週間」
- トライやるウィークで中学生が大奮闘！
- 医師異動のお知らせ

公立八鹿病院基本理念

私たちは、地域中核病院として、
医の倫理を基本に、質の高い医療
と優れたサービスをもって、住民
の健康を守り、地域の発展に尽く
します



当院は敷地内全面禁煙です
ご協力宜しくお願い致します

地域へ巡る 超音波検診

当院では、地域住民の健康を守るべく、各市町村や事業所を対象に腹部と乳房の超音波検診を行っています。

「超音波検診をやるぞー！」

進行した状態で見つかるがん患者さんを前に、なんとか早期発見し治療に繋がりたいという思いから、平成6年4月より腹部の超音波検診を始めました。その翌年、乳房の超音波検診も始めました。車内で検診が出来るよう超音波診断装置を2台搭載した検診バスで、開始当初から各地域を細かく回りました。その検診で発見されるのは、腎臓、肝臓などの病気が多く、検診を受けたことで早期に発見でき手術を受けられた方もあります。

地域を巡る超音波検診の最大の特徴は、病院で超音波検査を行っている知識・経験の豊富な技師（臨床検査技師や診療放射線技師）が同じ技術・内容を各地域の検診で発揮できることです。常に精度の高い検査を心がけ、病気の早期発見に努めています。

市民健診に組み込まれ 利便性が向上

現在、養父市や香美町では当院の超音波検診が市民健診の中に組

み込まれ、他の検診と同日に行えるようになりました。市民健診では基本的にバスは使用せず、会場内に3



養父市の市民健診の様子

〜4台の超音波診断装置を設置して行います。台数が増えることで1日の受診者数が増えてもスムーズに対応することが可能になりました。検査時間も決められていたため、待ち時間も短くスムーズに検査を受けることができます。また、当院では各地域の検診以外に、事業所検診も行っています。ご希望があれば20名前後の団体や事業所へ出向き、検査を行います。

乳房の施設検診も 行っています

市民健診の一部として院内で行う施設検診があります。この検診は、より診断精度を高めるために、乳房の超音波検査とマンモグラフィ検査の2つを行います。近年では、詳しい検診がしたいと施設検診を受けられる地域が広まり



腹部

肝臓・胆嚢・膵臓・腎臓・脾臓・
腹部大動脈と男性では前立腺、女
性では子宮・卵巣を検査

乳腺

乳腺・乳房の検査。
デリケートな部位の
ため女性技師が行う

**平成 23 年度
超音波検診実施概要**

【市民健診・事業所検診】

- 市民健診：17カ所
- 事業所検診：4カ所
- 日 数：47日(4月～10月)
- 受診者数：(腹部) 3885人
(乳腺) 546人

【施設検診 (乳腺+マンモグラフィ)】

受診者数：690人



香美町奥佐津公民館での市民健診。地域によっては現在もバスの中で検診しています



地域を巡回している
超音波検診チーム



検診バスの内部

ました。乳腺・乳房の検診への関
心が高まってきていることが実感
できます。
また、施設検診の年数を重ねる
ことでスタッフの技術力・意識も
高まり、マンモグラフィ検診施設
画像認定も取得することができま
した。

より良い検診を行うために

現在に至るまで、たくさんの受
診者を検査し、たくさんの方の病気を
発見してきました。院内でも検診
と同じスタッフが毎日のように超
音波検査に携わっています。日々
培っている技能を検診でも活用
し、できるだけたくさんの方々の
病気の早期発見に貢献していきた
いと思っています。
そして、各行政と連携をはかり、
より良い検診にしていきたいと考
えています。

の患者さんやご家族が
者会・教室」をご紹介！

教室の



き
「会」

障害という重い病気を
入院中の生活リハビリ
退院されていきます。
戻ったものの、なかなか
びがないなど、ひきこも
の苦勞も水の泡です。
せめてもの力になれれ
成 15年 12月に第 1
いたしました。
されてあり、年 1～
会を実施しています。

回復期リハビリテー
れていた方どなたでも

んか？一緒に励ましあ
ちります！

合わせ】

テーション病棟
病棟)



事務局長の嶋田さんによる「脳の活性化と脳の若返り法」のお話し。日々の生活を笑顔で充実させることの大切さをわかりやすくお話ししてくださいました

第14回 元気会交流会 in 八鹿病院 平成24年5月30日開催



谷名誉院長により医療の現状と健康管理についてのお話し。質問も多く寄せられました。



お手玉遊び。「もしもしかめよ～かめさんよ～」歌に合わせてお手玉を回していきます。



最後に記念撮影で解散となりました。常連の会員さんも初参加の会員さんも「楽しかった、参加できてよかった」と笑顔で帰られました。



みんなでリハビリ体操～

ピアノ伴奏でのカラオケ大会では、元気会の歌手のみなさんによる美声が会場いっぱい広がりました！



脳神経内科、近藤医師からのお話と歌のプレゼント。会員さんからのリクエストで「北酒場」も披露されました

元気会事務局の紹介

元気会の運営は、患者さんとその家族で結成された事務局で行われています。交流会が楽しく円滑に行われるよう、企画立案から弁当などの手配、会計といった全てを取り仕切っていただいています。患者さんご家族ならではの気配り・心配りもなされています。



熱心さのなかにも、わきあいあいとした和やかな打ち合わせ。当日までに4回も行われています。



案内状の作業中の会話。片手が不自由なため「病気になってへんかったらきれいに折れるのに…」「病気になったから、みんなとこうして知り合えたいだよ」元気会の皆さんの前向きなお気持ちが嬉しいです。



交流会で終了ではありません。後日に礼状や写真の発送準備、また、次回の交流会がよりよいものとなるように反省会も行われています。

機能回復への意欲を持ち「自分に負けない、病気に負けない」との願いで「元気会」と命名しました。この会に参加することで気軽に話し合い励まし合い、明日への希望の灯がより一層明るいものになるような会にしたいと考えています。



八鹿病院スタッフよりひとこと



副院長 脳神経内科部長
近藤清彦

運動は何よりも継続が大事 次回も元気な顔で

お世話をさせていただく皆様のおかげで、元気会の参加者は年々増加し、よい会に成長しています。リハビリの目的は、①機能回復と機能維持、②残存能力の活用、③生きがいを保つ、の3つです。大切なのは、立ち上がり練習、立っている時間、歩数です。運動は何よりも継続が大事です。次回もお元気な顔を見せてください。



回復期リハビリ病棟
師長 橋本八代美

生きがいをもつことの大切さを学ぶひとときです

2病棟を卒業されたみなさんにお会いできる元気会を、毎回楽しみにしています。常連さんから初参加の方まで、元気なお姿を拜見し、日々の工夫や新たな挑戦を聞かせてもらうたびに私も勇気・元気・感動でいっぱいになります。生きがい・やりがいを持つことの大切さを学ばせてもらえるひとときです。

同じ病気・障害を持つ
参加されている「患者

患者会・
「元気

もと
「元気

脳卒中など脳血管障
患った患者さんは、入
の中で病気を克服し、
しかし、自宅生活に戻
か外出するきっかけが
りがちではせつなく、
そのような方たちのセ
ばという思いで、平
回目の元気会を開催し
現在、60名が登録
2回のペースで交流

【参加対象】

脳血管障害で当院の
シオン病棟に入院さ

ぜひ参加してみませ
えるようお待ちしております

【お問

回復期リハビリ
(2病



但馬の褥瘡をゼロにしたい!そんな思いをもったメンバーが集まっています

じょくそう 褥瘡対策チーム

院内での活動

院内の多職種スタッフによる回診や全職種を対象に定期的に研修会を行っています。



褥瘡回診



食べやすくおいしい栄養補助食品を選ぶため、参加者にも試食してもらいます



ビデオカメラを設置し体位変換を実演。スクリーンに写し全員が見えるように工夫しています

※皮膚・排泄ケア認定看護師 (WOC)

WOCとは Wound (創傷)、Ostomy (オストミー)、Continence(失禁)の頭文字をあわせたものです。主に褥瘡のケア、人工肛門・人工膀胱など手術により排泄経路を変更された方や失禁の方へのケアやアドバイスなどを行います。

「但馬褥瘡ゼロ作戦」に取り組んでいます

平成7年に褥瘡研究会(褥瘡対策委員会の原型)を発足し、主に院内を重点的に活動を行ってきました。

褥瘡(じょくそう)とはいわゆる『床ずれ』と呼ばれるもので、ベッドに寝たきりの方や車いすを利用している方に多くみられます。寝たきりの方に床ずれはつきものだと思います。次第で褥瘡の発生を防ぐことができます。

平成19年10月、ある介護施設の介

護スタッフを対象とした研修会を開催しました。研修会后、褥瘡患者が減少したとの報告があり、地域へ褥瘡対策の啓発を行うことが褥瘡予防に有用と考えました。そして、平成20年10月より褥瘡対策チームの「褥瘡行脚」と称し院内・院外問わず、さまざまな地域や施設で研修会を行ってきました。

褥瘡対策チームの主な構成メンバーは、医師、皮膚・排泄ケア認定看護師※、看護師、介護士、薬剤師、

理学療法士、管理栄養士、臨床検査技師、医療ソーシャルワーカーです。褥瘡の要因は、単に寝たきりというだけでなく、長時間の圧迫や姿勢のずれ、栄養状態や薬の選び方などが挙げられ、様々な視点からケアすることが大切です。多職種のスタッフがチームを組み、日々連携をとって今までの経験から得た知識を地域へ発信できるよう、「但馬褥瘡ゼロ作戦」に取り組んでいます。

院外への訪問研修会「褥瘡行脚」

現在は年に5～10回くらい訪問研修会に出かけます。開始時間が業務終了後の遅い時間となりますが、多くの方が参加する大変活気のある研修会です。



電動ベッドがない施設では、診察台をベッド代わりに使用して実技を行ったり、体位変換枕やパソコン、プロジェクターなどを持参して行きます



下痢や肺炎を起こさないための流動食の注入方法を説明



人体模型を用いて創の処置の方法を実演



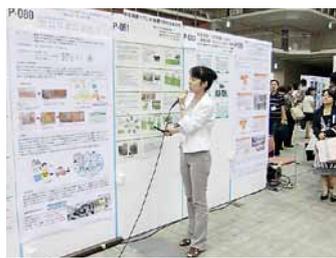
理学療法士によりベッドから車いすへの移動の方法を実地指導

皆さん熱心で、参加できないスタッフのためにビデオ撮影もされています



学会発表

褥瘡ケアを多くの方に知っていただくには学会発表も大切な啓発活動の1つです。年に1～2回程度発表しており、今年の9月には初の国際創傷治癒学会で発表します。



2011年8月 日本褥瘡学会学術集会（博多）の様子

トピックス

5月15日～18日 看護の意識を高めよう「看護週間」



今年も健康チェック（血圧・体組成計測定）や健康・栄養相談、癒しのアロママッサージや手洗いチェック、介護用品・絵画展示などイベントを行いました。多数のご参加ありがとうございました。



5月28日～6月1日 トライやる・ウィークで中学生が大奮闘!

当院にてトライやる・ウィークが実施され、八鹿青溪中学校、養父中学校、大屋中学校、関宮中学校の皆さんが1週間体験をされました。是非、将来の夢に役立てていただき、いつか当院と一緒に働くことができることを楽しみにお待ちしております。



医師異動の お知らせ

(平成24年4月1日～)

【新任医師】

～よろしくお祈りします～



【歯科口腔外科】
おかもと ひではる
岡本 秀治



【歯科口腔外科】
たにお しゅんすけ
谷尾 俊輔

発行

公立八鹿病院 総務課

〒667-8555 兵庫県養父市八鹿町八鹿 1878 番地 1 TEL. 079-662-5555 (代) <http://www.hosp.yoka.hyogo.jp>

